

## 「和歌山市地域子育て支援拠点事業運営業務」事業計画書④

### 【子育て親子の交流の場の提供と交流の促進（通年）】について

拠点を訪れる親子が居心地よく過ごせる空間になるよう、以下の点についてどのように工夫するのか記載してください。

#### ・親子同士の交流が促進されるための工夫

子どもの月齢で分けた講習会や座談会を企画、定期的を開催し、育児の時期が似た親子を集め交流を促進する。

意見交換や情報共有がしやすい場作りをスタッフが中心となっている。

スタッフは普段の会話から、利用者の趣味や特技を発見し座談会などの活かす場の提案をしています。利用者が主体的となり親子同士の交流促進となるような仕掛けをします。

#### ・未就園児を連れた保護者が居心地よく過ごせるような空間作り

どの方にも来所された時は笑顔で扉を開けお出迎えし、会えて嬉しいことをお伝えします。

利用者との会話内容はスタッフ同士で共有し、どのスタッフとでも利用者との距離感を縮めるように努めます。

子どもの「できた！」が増えるとスタッフも一緒になって成長を喜びます。

利用者に疲れが見えた時はスタッフが子どもとしっかり関わり、親と子の離れる時間を作るようにします。

#### ・交流の場に来た子供が楽しく過ごせる空間作り

おもちゃは幅広い年齢に対応した物を置きます。

スタッフの廃材を使用した手作りおもちゃが時々並び、飽きないよう工夫します。

スタッフとしっかり遊び関係性を構築します。

あとから施設を訪れた子どもへ先に来ている子どもたちは一緒にお出迎えし、一緒に遊ぼうと誘うよう促します。

先に帰る子どもは、一人一人に「バイバイ」とさよならの挨拶をして回ったり、みんなで出口までお見送りしたり連帯感が自然と生まれています。

## 【子育て等に関する相談、援助の実施（通年）】について

子育てだけに限らず様々な悩みを抱える保護者に対して誠意ある対応ができるよう、以下の点についてどのように工夫するのか記載してください。

### ・安心して相談できるような環境づくり

普段からコミュニケーションを取り、他の話題や趣味嗜好について話せる雑談の機会を作ることが信頼関係の構築に重要。

繰り返すことで悩みを話せる関係性を作り心理的安全を高めると考える。

個人情報保護に配慮するべく、対面以外にもメッセージや電話、ZOOMでの相談も24時間体制で受付をしています。

### ・相談対応時の心構えや相談を受けるための姿勢

聞き手は相談相手に対し、必要以上に自分をよく見せようとせず、取り繕うことのない姿勢で話を聴く。

審判的、批判的な態度で接することなく、相談者を無条件で受け入れる。

傾聴し相手の感情の代弁者になることもあるが、自分を見失わないようにする。

### ・必要とされる援助等に円滑に結びつけるための体制整備

和歌山市家庭教育支援サポーターとの連携をとっていく。

和歌山市家庭教育支援サポーターの各専門家が充実しているため、必要な支援に繋ぐための道筋が豊富である。

保育士や幼稚園教諭の経験豊富な資格所有スタッフが6人もいる充実した体制である。

また全員が定期的に心理学の研修会に参加し自己研鑽に努める。

相談対応をしたスタッフは心理士に報告し、対応した内容のフィードバックを求め業務の改善や向上に努める。

保護者にとって有用な情報や保護者が求めている情報を、できる限り迅速かつスムーズに提供できるよう、以下の点についてどのように工夫するのか記載してください。

・保護者のニーズ把握も含めた情報収集方法

講習時や SNS にて定期的なアンケート調査の実施。

普段の会話から日常的に情報収集。

公式 LINE や SNS のメッセージ機能を使い気軽にどこからでもコメントが出来るようにし、情報収集をする。

・保護者のニーズ・利便性に添った情報提供方法

SNS (Facebook、Instagram) を使用した情報発信により活動を可視化。

公式 LINE にて利用者のニーズに応じた情報を発信

地域情報マップを施設に掲示。情報マップをもとに情報交換会を開催。

「子育て支援ネットワークすくのび」実行委員会にて子育て支援情報マップのハンドサイズ版を作り配布。

【子育て及び子育て支援に関する講習等の実施（月1回以上）】について

未就園児を連れて参加する講座としてふさわしく、かつ子育てのヒントになるような講座が実施できるよう、以下の点についてどのように工夫するのか記載してください。

・参加のための工夫（内容、時間設定、参加方法等）

- ・親子参加型の講座は基本的に予約制とし、拠点で直接予約以外に、電話や SNS、公式アカウントなど複数の選択できる予約方法で申し込みのしやすさに配慮。
- ・子どもの月齢による昼寝の時間を考慮した上で開始時間を設定する。
- ・講座内容は利用者からの要望にできる限り応じるように努める。
- ・家庭教育支援サポーターの講座は毎回アンケートを取り講座内容を決める。
- ・イベントの終わりは相談の時間を設ける。
- ・参加する子供の対象年齢を設定し月齢が近い親子を集め交流促進に繋げる。

・講座内容の設定に関する考え方

- ・ニーズがあった講習は開催数を増やす。
- ・アンケートを定期的に取りニーズのある講習をする。
- ・防災、SDGs、サーキュラーエコノミーなど今の時代に沿った内容設定にし、意識醸成に取り組む。
- ・相談件数が多い悩みの解決に繋がるような講座内容の設定。
- ・親子の愛着形成に繋がるような講座内容の設定。



## 【その他の子育て支援活動の実施】について

地域の実情、利用者のニーズ等に応じて、提案する拠点施設を生かした活動、拠点施設内にとどまらない近隣エリアにおける子育て支援活動等、どのような取組を行うのか記載してください。

### ・取組内容について

(例：●設置場所を生かした活動、●公民館、公園等に出向いた親子交流、●子育てサークルとの協働や連携、●高齢者、学生、地域団体との連携等)

- ・ シカゴテラス 2 階交流センターで地域住民の方と合同でイベントを開催。
- ・ 近隣の公園等に出向き出張イベントを開催
- ・ シカゴテラス全テナントと自治連合会と連携しイベント開催
- ・ 大学実習生と親子交流
- ・ 家庭教育支援サポーターと連携をとり定期的に講習会を開催。
- ・ 定期的な物々交換会の開催。
- ・ 地区の消防団と消火訓練
- ・ 「子育て支援ネットワークすくのみ実行委員会」に所属し他拠点と協働し講演会を開催。

### ・取組を実施することによる効果等について

- ・ 地域住民と利用者との交流促進や多世代交流。
- ・ まだ利用していない親子へ子育て支援拠点施設の認知に繋げる。
- ・ 親子が安心して利用出来るよう地域と良好な関係の構築。
- ・ 買い物や憩いの場として子育て中の親にも利便性のあるシカゴテラスで地域コミュニティの活性化。
- ・ 子育て支援を担う次世代の学生へ育成の環境を整える。
- ・ 子どもの年齢問わず、いくつに成長しても家庭教育支援サポーターが身近な相談者となるシームレスケアができる。
- ・ 必要としている次の人へ限りある資源を捨てずに使い切る環境循環の取り組み。
- ・ 施設で災害が起きた時の避難訓練で防災意識を高める。
- ・ 子育て支援従事者のスキルを上げる。

